

各 関 係 機 関 御 中

石川県農林総合研究センター所長
(公 印 省 略)

病害虫発生予察情報について

令和4年度病害虫発生予報第1号を下記のとおり送付します。

連絡先 石川県農林総合研究センター
農業試験場 総合研究部 病害虫防除室
電話 076-257-6972 (直通)
FAX 076-257-9140
E-mail kisk0301@pref.ishikawa.lg.jp

病害虫発生予報第1号 (予報期間：4月下旬～5月中旬)

予報内容

水 稲

イネミズゾウムシの発生は**やや多**と予想される。箱施薬していない圃場では、1株当たりの成虫数が0.3頭以上認められたら直ちに防除する。

麦 類

大麦赤かび病の発生は**並**と予想される。出穂前後の降雨は発生を助長するので、出穂期の3～5日後とその7～10日後の2回防除を実施する。

大 豆

ネキリムシ類・タネバエの発生は**やや多**と予想される。は種時の防除を徹底する。

果 樹

かき炭疽病の発生は**多**と予想される。孢子飛散は4月下旬からと予想される。発病が新梢に認められた場合は直ちに防除する。

ハダニ類の発生は**やや多**と予想される。抵抗性害虫の発生を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

野 菜・花 き

すいか褐斑細菌病の発生は**やや多**と予想される。トンネル除去時の防除を徹底する。

アブラムシ類・コナガの発生は**やや多**と予想される。早期発見に努め、発生を認めた場合は防除を実施する。

ネキリムシ類の発生は**やや多**と予想される。は種時又は定植時の防除を徹底する。

**病害虫防除の実施に当たっては、最新の農薬使用基準を確認し、遵守する。
また、周辺作物への飛散防止に留意する。**

気象予報

1か月予報（4月7日付け 新潟地方気象台）

予報期間：4月9日～5月8日

[確率予報]

気 温	低 い	10%	平年並	30%	高 い	60%
降 水 量	少 ない	40%	平年並	30%	多 い	30%
日照時間	少 ない	30%	平年並	40%	多 い	30%

[概要]

1か月予報

暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の平均気温は高いでしょう。特に、期間のはじめは気温がかなり高くなる見込みです。

向こう1か月の降水量と日照時間は、ほぼ平年並でしょう。

・4月9日（土）～4月15日（金）

高気圧と低気圧が交互に通る見込みです。天気は数日の周期で変わりますが、湿った空気の影響を受けやすいため、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

・4月16日（土）～4月22日（金）

高気圧と低気圧が交互に通る見込みです。天気は数日の周期で変わりますが、高気圧に覆われやすいため、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

・4月23日（土）～5月6日（金）

高気圧と低気圧が交互に通る見込みです。天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

注 1) 発生量は平年比。
2) (+) は病害虫の発生に好適な要因、(-) は不適要因、
(±) は好適・不適に関与しない要因を示す

1 水稻の病害虫

イネミズゾウムシ

発生時期 本田侵入盛期は5月4半旬以降
発生量 やや多
予報の根拠 (1) 前年の発生は並(±)
(2) 気温は高い(+)
防除上の注意事項 (1) 箱施薬していない圃場では田植え後のほ場巡回に努め、1株当たりの成虫数が0.3頭以上認められたら直ちに防除する。

イネドロオイムシ

発生時期 成虫の本田侵入盛期は5月下旬、幼虫発生盛期は6月中旬
発生量 並(成虫)
予報の根拠 (1) 前年の発生はやや少(-)
(2) 気温は高い(+)
防除上の注意事項 (1) 箱施薬の実施に努める。
(2) 箱施薬していない圃場では、1株当たり1卵塊以上認められる場合、直ちに防除する。

イネヒメハモグリバエ

発生時期 5月下旬以降
発生量 やや少
予報の根拠 (1) 気温は高い(-)
防除上の注意事項 (1) 発生初期の防除を徹底する。
(2) 深水管理は発生を助長するので留意する。

2 麦類の病害虫

大麦赤かび病

発生時期 4月下旬以降
発生量 並
予報の根拠 (1) 前年の発生は少(-)
(2) 気温は高い(+)
(3) 降水量はほぼ平年並(±)
防除上の注意事項 (1) 高温時の降雨は発生を助長するので留意する。

大麦うどんこ病

発生時期 連続発生
発生量 多
予報の根拠 (1) 現在の発生は多(+)
(2) 気温は高い(+)
(3) 降水量はほぼ平年並(±)
防除上の注意事項 (1) 現在のところ発生は常発地に限られている。急進展するようであれば防除を実施する。

3 大豆の病害虫

ネキリムシ類（カブラヤガ・タマナヤガ）

発生時期	増加期は5月下旬以降
発生量	やや多
予報の根拠	(1) タマナヤガのフェロモントラップ誘殺数は並（±） (2) 気温は高い（+）
防除上の注意事項	(1) は種時の防除を徹底する。

タネバエ

発生時期	5月下旬以降
発生量	やや多
予報の根拠	(1) 気温は高い（+） (2) 降水量はほぼ平年並（±）
防除上の注意事項	(1) は種時の防除を徹底する。 (2) 有機物を施用した圃場は発生が多くなるので注意する。

4 果樹の病害虫

なし黒星病

発生時期	5月中旬以降
発生量	やや少
予報の根拠	(1) 前年の発生は並（±） (2) 気温は高い（-） (3) 降水量はほぼ平年並（±）
防除上の注意事項	(1) 発生初期の防除を徹底する。

なし黒斑病

発生時期	5月中旬以降
発生量	並
予報の根拠	(1) 前年の発生は少（-） (2) 気温は高い（+） (3) 降水量はほぼ平年並（±）
防除上の注意事項	(1) 袋かけ前の防除を徹底する。

ぶどう灰色かび病

発生時期	4月下旬以降
発生量	やや少
予報の根拠	(1) 気温は高い（-） (2) 降水量はほぼ平年並（±）
防除上の注意事項	(1) 早期発見に努め、発生を認めた場合は防除を実施する。

かき炭疽病	
発生時期	新梢の発病は5月上旬以降
発生量	多
予報の根拠	(1) 前年の発生は多 (+) (2) 気温は高い (+) (3) 降水量はほぼ平年並 (±)
防除上の注意事項	(1) 胞子飛散は4月下旬からと予想される。発病が新梢に認められた場合は直ちに防除する。

ハダニ類	
発生時期	増加期は4月中旬以降
発生量	やや多
予報の根拠	(1) 前年の発生は並 (±) (2) 気温は高い (+)
防除上の注意事項	(1) 防除は発生源となる下草を刈り取った後に実施する。 (2) 抵抗性害虫の発生を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

5 野菜・花きの病害虫

トマト灰色かび病	
発生時期	連続発生
発生量	やや少
予報の根拠	(1) 現在の発生はやや少 (-) (2) 気温は高い (-) (3) 降水量はほぼ平年並 (±)
防除上の注意事項	(1) 発生初期の防除を徹底する。 (2) 施設内の換気および適正温度の管理に努める。

トマト葉かび病	
発生時期	増加期は5月下旬以降
発生量	やや少
予報の根拠	(1) 現在の発生はやや少 (-) (2) 気温は高い (-) (3) 降水量はほぼ平年並 (±)
防除上の注意事項	(1) 施設内の換気および適正温度の管理に努める。 (2) 肥料切れの圃場に発生しやすいので、適正な施肥を行う。

すいか褐斑細菌病	
発生時期	増加期は5月下旬以降
発生量	やや多
予報の根拠	(1) 育苗期の発生は並 (±) (2) 気温は高い (+) (3) 降水量はほぼ平年並 (±)
防除上の注意事項	(1) トンネル除去時の防除を徹底する。 (2) 圃場排水に努める。

きゅうり灰色かび病

発生時期	連続発生
発生量	やや少
予報の根拠	(1) 現在の発生はやや少 (－) (2) 気温は高い (－) (3) 降水量はほぼ平年並 (±)
防除上の注意事項	(1) 発生初期の防除を徹底する。 (2) 施設内の換気および適正温度の管理に努める。

ねぎさび病

発生時期	連続発生
発生量	並
予報の根拠	(1) 現在の発生はやや少 (－) (2) 気温は高い (+) (2) 降水量はほぼ平年並 (±)
防除上の注意事項	(1) 早期発見に努め、発生を認めた場合は防除を実施する。

きく白さび病

発生時期	連続発生
発生量	並
予報の根拠	(1) 現在の発生はやや少 (－) (2) 気温は高い (+) (3) 降水量はほぼ平年並 (±)
防除上の注意事項	(1) 定植直後の防除を徹底する。

アブラムシ類 (野菜・花き全般)

発生時期	急増期は4月下旬以降
発生量	やや多
予報の根拠	(1) 現在の発生は並 (±) (2) 気温は高い (+)
防除上の注意事項	(1) 早期発見に努め、発生を認めた場合は防除を実施する。

ネキリムシ類 (カブラヤガ・タマナヤガ)

発生時期	増加期は5月下旬以降
発生量	やや多
予報の根拠	(1) タマナヤガのフェロモントラップ誘殺数は並 (±) (2) 気温は高い (+)
防除上の注意事項	(1) は種時又は定植時の防除を徹底する。 (2) ほ場およびほ場周辺の除草をこまめに行う。

コナガ (アブラナ科野菜)

発生時期	4月下旬以降
発生量	やや多
予報の根拠	(1) 現在の発生は並 (±) (2) 気温は高い (+)
防除上の注意事項	(1) 早期発見に努め、発生を認めた場合は防除を実施する。